中学生の「税についての作文」

福岡県納税貯蓄組合連合会　会長賞

税金ってどんなイメージ？

大川市立大川中学校
三年　田　毎　陽菜乃

選挙が近づくといつも聞こえてくる、「消費税の増税反対！」「消費税をなくそう！」という声。春には、「また〇〇税を払わなきゃいけない」と言う両親。ニュースでは、巨額の脱税事件が報じられることもしばしば。このように、「税金」には、「高い」「払いたくない」など、マイナスのイメージがあり、私もそうだった。

そんな私の税金へのイメージが変わったのは、祖父と一緒に乗ったタクシーでの出来事がきっかけだった。私の祖父は、数年前に病気になり、片方の耳がほとんど聞こえなくなった。そのため、外へ出かける時は、補聴器を付け、タクシーを利用する。ある日、一緒にタクシーに乗った際、祖父がチケットのような紙を渡していた。後で聞いてみると、祖父は身体障害者手帳を持っていて、タクシー券をもらっているとのことだった。他にも、医療費が割り引きされたり、補聴器を購入する際に助成金がおりたりしているそうだ。そして、それらは税金によってまかなわれているのだ。だれもが不便なく生活できるように税金が使われていて、そして、自分の家族がその一人だと分かり、私は税金を身近に感じるようになった。

先日、弁論大会の後に「市長とのトークセッション」というものがあり、パネラーの一人として参加した。これからの町づくりについて聞かれ、私を含む中高校生は、「交通の便が悪いので、駅をつくってほしい」「子供達が遊べる公園をつくってほしい」などと発言した。今考えてみると、それらの要望をかなえるには、すべて税金が必要である。

私たちが通っている学校、教室にある黒板や机、様々な楽器や実験道具、いつも使っている教科書、勉強を教えてくださる先生方の給料…すべてに税金が使われている。私たちが学べるのも、税金のおかげなのだ。

地域に目を向けると、道路や橋、信号機、みんなが使う物は全て税金が用いられている。消防車や救急車、パトカーなど、緊急時に対応する物やそれに関わる人たちにも、税金が欠かせない。

このように、私は、身近なところから税金の使われ方を知り、自分たちの暮らしが税金で支えられていることに気づくことができた。そして、私たちが生活していくためには、税金は必要不可欠だと分かった。

私たちは、もっと自分たちの生活がいかに税金に支えられているかということを学んでいく必要があると思う。そして、大切な税金が無駄なく、人々の生活の充実のために効率的に使われているとみんなが実感することで、税金へのイメージはプラスへと変わっていくだろう。